

平成26年度以降の横浜市市民活動支援センター事業の評価について（案）

1 概要

横浜市市民活動支援センター事業の評価について、事業の選定を行っている部会とは別の観点から、評価をすることの有効性や公平性、透明性がより明確になるという意見が多かったため、これまでどおり3月に委員会で行うこととしたいと考えます。

なお、部会が選定後の事業の進捗等を把握することが出来ないという意見については、10月に団体からの中間報告を行い、次年度の4～5月の委員会評価報告書の内容を報告することとしたいと思います。

そこで、事業の成果を今後の団体活動に反映できるような、意義あるものにするという観点から、審査と評価の考え方を次のように整理しました。

2 部会及び委員会意見を踏まえた事務局案

開催時期 (予定)	委員会	部会
平成26年 5月～6月	平成26年度事業実施計画（案）について （団体報告） ※運営事業はH25の相互検証報告もあり	
10月		（1）事業進捗状況の確認及び年度後半に向けた意見（団体報告）
11月	（2）部会意見の確認（事務局報告）	
平成27年 2月		新規自主事業審査
3月	新規自主事業審査 （3）平成27年度の事業実施継続についての 審議及び評価（団体報告） *評価書作成	
4月～5月		（4）委員会評価報告書（平成26年度事業） の確認（事務局報告）
5月～6月	平成26年度相互検証報告（運営事業のみ） 新規自主事業計画（案）（団体報告） ※継続団体については、3月の報告のみ	
10月		（1）事業進捗状況の確認及び年度後半に向けた意見（団体報告）

（1）事業進捗状況の確認及び年度後半に向けた意見（新規：10月）

部会で実施（審議事項）

- ・団体からの事業経過報告及び質疑あり

→団体自身が当該事業の進捗状況等を振り返り、問題点や課題を抽出し、部会は事業実施状況を把握したうえで、アドバイスし、団体育成や事業の推進を図ります。

（2）部会意見の確認（新規：11月）

委員会で実施（事務局報告）

→中間報告の説明を行います。

（3）事業実施継続についての審議及び事業評価（現行通り：3月）

委員会で実施（審議事項）

- ・団体からの事業報告、次年度事業計画（案）の説明及び質疑
- ・評価書を作成していただきます。

※ 次年度事業計画書について、団体は委員会からの事業評価を踏まえて適宜修正し、確定した計画書は、次回（5～6月頃）の委員会で事務局より報告します。

ただし、審議の際に付帯条件付きで事業継続となった団体には、修正後の事業計画の報告を

次回（5～6月頃）の委員会で団体に求める場合があります。

（4）委員会評価報告書（新規）（4月～5月）

部会で実施（事務局報告）

→委員会の評価書について報告します。

参 考

1 平成25年度第2回市民活動支援センター事業部会（平成25年11月1日開催）での主な意見

- おそらく、元々は自分たちで選んだ団体を自分たちで評価することは、公平性を考え、審査と評価が分けられていたと思う。
- 対外的に審査がクリーンであると説明できれば、評価も一体的にやることは構わないと思う。
- 審査機関と評価機関が違うことにより公平性が保てる部分もあるのかもしれない。
- 複数年の事業の場合、途中でレビューを行い、助言できるといい。

2 第1期第3回推進委員会（平成25年11月25日開催）での主な意見

- 部会の審査の中で、当該事業に対し深く確認したりすることができると思うので、それらを踏まえた評価を部会で実施することは一体的になりいいと思う。
- 今まで手がつけられていないような先進的な事業であり、Plan-Do-Seeのプロセスを進めながら、次年度により発展した事業に育てていくのであれば、一体的に審査評価することはいいことだと思う。一方、先まできちんと見通せた事業を選定するのであれば、公平性の観点から現行のシステムのように評価を分けて実施するのもいいと思う。したがって、複数年の間にどのような期待をするのかによって変わってくるという印象がある。
- 非常に短い時間の中で色々なプロセスを割愛して、評価だけを委員会で実施していることにどの位の意味があるか不確かである。部会の審査の過程の中で出てきたことをフィードバックしながら団体を育てていくほうが望ましい。一方で委員会の意義を考えたときには、審査と評価を分けていることは合理性があるのではと考えている。
- 「審査と評価を一体的に行うことで、効果的に事業を進める」とあるが、この「効果的に」というのがどういう意味を持っているかにもよる。自主事業団体が、事業を行って受益者のためにサービスを提供することが目的であれば、「効果的に」と言えるかもしれない。自主事業団体の支援なのか、受益者のためのサービスを充実させるのか、継続性をどう担保するかなど、最終的な目的をどこに持っていくかによって、この「効果的に」という意味合いが変わる気がする。これらも考慮し、判断しなければいけないと思う。
- 透明性の確保ができるかが大きい。また、評価は、違う目で見ると意味もあると思う。
- 市民活動支援センターが日常的に自主事業団体をフォローしていくのであれば、市民活動支援センターの運営者が委員会に入るとか、委託金や助成金を支出するのであれば、市職員も委員会に入り、責任を持って主体としてかわるという方法もあると思う。
- 市民が市民を評価や審査することの妥当性や是非を、議論する機会があってもいいのでは。

平成 年度 横浜市市民活動支援センター（運営・自主事業）
中間報告における部会意見

事業実施団体名
特定非営利活動法人
事業名
部会委員意見

平成 年度 横浜市市民活動支援センター（運営事業）中間報告書

事業実施団体名
特定非営利活動法人
事業概要

進捗及び振り返り

今後の課題や問題点

※A4 2枚までで記入してください。

平成 年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間報告書

事業実施団体名
事業名
事業概要

進捗及び振り返り

今後の課題や問題点

※A4 2枚までで記入してください。